

はじめに

歴史的個性の際立つ魅力的な地域の伝統的建造物群保存地区(以下、伝建地区)は、今もなお人々の生活や生業の場として重要な役割を果たしています。小山工業高等専門学校(以下、小山高専)周辺には、栃木市嘉右衛門町と桜川市真壁、桐生市桐生新町の3つの伝建地区があり、さらに栃木市栃木町地区も伝建地区指定を目指した取組みが進められています。これらの地区およびその周辺は、2011年東北地方太平洋沖地震とその余震で多くの被害を受けました。その翌年11月には、桜川市真壁に近いつば市北条地区中心部に竜巻が襲来し、歴史的建造物が多く残る町並みに壊滅的な被害をもたらしました。桐生市では2014年2月に予想外の大雪に見舞われ、屋根の損壊等の被害が生じました。さらに、2015年9月には関東東北豪雨によって栃木市の歴史的市街地を流れる巴波川が氾濫し、戦後まもなく以来の浸水被害を受けました。このように、近年、自然災害が少なかった北関東の歴史的市街地において多様な自然災害が発生しており、火災も毎年のように発生しています。これらの災害で大規模な人的被害が発生しなかったとはいえ、地域づくりの中核としてきた歴史的市街地が被災することは、そこで暮らす人々の生命を脅かすだけでなく、地域活動や個人の活力の衰退にも密接に関わります。したがって、個別の災害に対して予防力を高める対策に加えて、起こり得るあらゆる災害に対して強くしなやかに乗り越えられるように、地域のみんなで町を守るコミュニティづくりも求められています。

成熟した我が国では、地域の文化を守り創る活動が地域の生活や産業、文化の広い担い手(総称してステークホルダー等と呼ばれています)を繋ぎ、その繋がりによる力が災害に強い「みんなで町を守る」という地域コミュニティを創出すると考えます。伝建地区には、伝統的な祭礼などの継承によって地域の結束力を高め、結果的に防災に繋がる効果を生み出している例も多く見られます。しかし、一方で、全国各地と同様に、多くの伝建地区では、少子高齢化や商業の衰退が進行する中で伝統の継承が難しくなっており、祭礼などと日常生活の関係が弱体化しつつあるのが現状です。そのような中で安全安心な地域を創るには、地縁的な繋がりに加えて、伝建地区を中核とした自治体と住民との繋がりや、全国もしくは近隣地区のネットワーク、歴史まちづくりに関心を持つ外部からの多様な人材(アクター)などによる新たなソーシャル・ネットワークの活用が望まれます。

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の社会技術研究開発センター(RISTEX)では、「コミュニティがつなぐ安全・安心な都市・地域の創造」研究開発領域が2012年度から新たに設置され、我々は栃木市と桜川市の伝建地区で活動する様々な立場の方々や様々な専門分野の研究者と共に「伝統的建造物群保存地区における総合防災事業の開発」研究開発プロジェクトを提案し、採択されました。この研究プロジェクト(研究期間:2012年11月~2015年11月)では、普段からの地域活力を高める仕掛けづくり、万が一に被災した場合でも被害を最小限にとどめる予防力を高める技術の開発、早期に復興するための回復力を高めるネットワークづくりなど、歴史的市街地の総合防災を考える上で必要と考える様々な分野について多角的な取組みを行いました。

本研究プロジェクトにおけるアプローチや成果をすぐに各地の歴史的市街地に実装するのは難しいかも知れませんが、今後の発展・活用が期待される成果が多く創出されました。そこで、次のステージに向かう道しるべにしたいと考え、本研究開発プロジェクトにおける個々の取組みの方法や結果、さらに取組みを通じて得た知見等を雑記帳として纏めました。本書は、“地域活力を高める”“予防力を高める”“回復力を高める”の3編で構成し、様々な立場の方々が、それぞれ興味や関心がある内容を参考にしやすいように、研究プロジェクトでの多岐におよぶ取組みを短編的な項目にわけて纏めることを心がけました。ただし、一項目あたりの情報量が限られてしまうために、さらに詳しい情報を得たい方には参考文献で関係する発表論文等を示しています。

研究プロジェクトにおいて、永續するまちづくりの僅かな時間に携わらせていただいたことに感謝すると同時に、ここでの成果が今後の地域づくりに貢献できることを願っています。また、本書が全国の歴史的市街地に限らず、同様の課題を抱えるあらゆる地域における地域づくりの一助になれば幸いです。

本研究開発プロジェクトを進めるにあたり、ご協力いただきました多くの皆様に心より感謝申し上げます。

研究代表 横内 基(研究当時:小山工業高等専門学校、現在:国士舘大学理工学部)